

平成30年8月21日

久留米市議会議長 佐藤 晶二 様

議会広報委員長 山下 尚

委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、報告書を提出します。

記

- 1 日 程 平成30年8月7日（火）～9日（木）
- 2 派遣先 香川県坂出市：議会広報の取り組みについて
及び内容 香川県高松市：議会広報の取り組みについて
高知県高知市：議会広報の取り組みについて
- 3 派遣委員 委 員 長 山下 尚
委員長職務代理者 森崎 巨樹
委 員 山田 貴生 早田 耕一郎
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 志岐 明洋

視察報告書

委員会名	議会広報委員会
視察日時	平成 30 年 8 月 7 日 (火) 午後 3 時 30 分 ～ 午後 4 時 45 分
視察先・概要	香川県坂出市 人口：約 5 万 4 千人 面積：92.49 k m ²
視察内容	議会広報の取り組みについて
選定理由	市内にある高校の写真部の作品を議会広報紙の表紙に採用したり、裏表紙に「さかいで再発見」という特集記事を掲載するなど、議会広報紙の読者増に積極的に取り組んであり、本市が今後取り組む参考とするため。
調査概要	<p>坂出市議会において、広報広聴委員会植原委員長の挨拶に引き続き、広報広聴委員会の若杉副委員長、出田委員より、議会広報の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。</p>  <p style="text-align: center;">＜視察の様子：坂出市＞</p>
調査内容	<p>坂出市議会では、平成 27 年から議会だよりのレイアウトをデザイナーに委託し、紙面のリニューアルを行った。その際に表紙写真を市内にある 3 つの高校の写真部に順番に依頼するようにした。表紙を検討した際、高校の運動部は発表の場が数多くあるが、文化部は少ないのではないかとことから発表の場をふやすということも含めてお願いするようになった。「高校生の考える坂出の元気」というテーマで撮影をお願いしている。特集記事「さかいで再発見」については、広報広聴委員会でテー</p>

	<p>マを選定し、委員が原稿を作成しているとのことであった。</p>
<p>主な質問・応答</p>	<p>問：高校の写真部にどのようにアプローチしていったのか。</p> <p>答：たまたま、ある高校の写真部の顧問と市議が知り合いだったので、まず、顧問とやり取りをしていき顧問の先生から学校へ話をさせていただいた。いきなり学校へ話をしていたら断られたのではないか。写真部員は、写っている人への了承などもしっかりと取るので安心できる。</p> <p>問：撮影した時期と掲載のタイムラグにはどのように対応しているのか。</p> <p>答：なるべくタイミングが合うように、事前に発行日を伝えて依頼している。</p> <p>問：リニューアル後の市民の反応はどうか。</p> <p>答：好意的な意見が多い。特に「さかいで再発見」については、いろんな場所で話を聞くようになった。</p>  <p style="text-align: center;">＜集合写真：坂出市＞</p>
<p>その他（意見・感想）</p>	<p>広報紙の表紙写真を高校の写真部に依頼するのは、事務局の負担軽減だけでなく、高校生に議会をもっと知ってもらうための一つのツールとして活用できるのではないかと感じた。また、同様に「さかいで再発見」のような特集記事も読者の掘り起こしにつながるのではないかと考える。今後、本市の市議会だよりを制作するうえで、検討の余地があると考えている。</p>

視察報告書

委員会名	議会広報委員会
視察日時	平成 30 年 8 月 8 日 (水) 午前 10 時 00 分 ～ 午前 11 時 30 分
視察先・概要	香川県高松市 人口：約 42 万 4 千人 面積：375.44 k m ²
視察内容	議会広報の取り組みについて
選定理由	議会の情報発信ツールとしてフェイスブックを活用されており、今後本市が SNS を活用して議会情報の発信に取り組む際の参考とするため
調査概要	<p>高松市議会事務局小川課長補佐の挨拶に引き続き、議会広報の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。</p>  <p style="text-align: center;">＜視察の様子：高松市＞</p>
調査内容	<p>高松市議会では、ICT を活用した広報活動の一環として SNS の活用を検討し、フェイスブックの活用を決定した。</p> <p>平成 28 年 11 月に高松市議会事務局でアカウントを取得し、利用規約等を定めて情報発信を始めた。主な掲載の内容としては、定例会・臨時会の開催日程、定例会・臨時会の議決結果、賛否情報、議会報告会等の告知、行政視察の受け入れ状況などである。</p> <p>導入の効果として、即時性のある情報発信と情報発信ツールの多角化が挙げられる。</p> <p>課題として、開設から 1 年半が経過し、ある程度軌道に乗ったと考えているが、フォロワー数が伸び悩んでいること、投稿内容が事務的な内容に限られてしまうことがある。今後は、SNS の流行や技術革新の動向を注視し、今後もより効果的な情報発信ができるよう努めていきたい。</p>

<p>主な質問・応答</p>	<p>問：フェイスブックを始める際、どのような広報をしたのか。</p> <p>答：チラシを作成して公共施設に置いたり、議会報告会で配布したりした。</p> <p>問：フェイスブックのフォロワーの分析はしているのか。</p> <p>答：フォロワーを分析した結果、内訳としては市職員、議員、議員の支援者が多かった。今後、市民のフォロワーをふやすのが課題である。</p> <p>問：ターゲットとしてはどのような方を考えているのか。</p> <p>答：ターゲットとしては、議会広報紙を読む割合が低い若い世代を考えている。議会広報紙では発信できないことを発信して議会に興味を持ってもらおうと考えている。</p> <p>問：議会広報紙が中核市議長会の広報紙コンクールで入賞されてあるが、どういうところが評価されたと思われるか。</p> <p>答：文章だけでなくイラストを配置して見やすくなるように心がけている。そのようなところが評価されたのではないか。</p> <div data-bbox="384 1115 1444 1706" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">＜集合写真：高松市＞</p>
<p>その他（意見・感想）</p>	<p>SNSの活用については、即時性のある情報発信など有効な面もあるが、定型的な発信になってしまうなどの課題もある。また、フォロワー数をいかにふやして情報の受け取り手をふやす取り組みも必要であり、そのような検討をしたうえで導入の可否の判断をすべきではないかと考える。</p>

視察報告書

委員会名	議会広報委員会
視察日時	平成 30 年 8 月 9 日 (木) 午前 10 時 00 分 ~ 午前 11 時 30 分
視察先・概要	高知県高知市 人口：約 33 万 2 千人 面積：309.00 k m ²
視察内容	議会広報の取り組みについて
選定理由	議会の情報発信の手法として、議会広報紙だけでなくアプリを使った広報をされており、本市の今後の取り組みの参考とするため
調査概要	<p>高知市議会事務局山崎課長の挨拶に引き続き、議会広報の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。</p>  <p style="text-align: center;">＜視察の様子：高知市＞</p>
調査内容	<p>高知市議会では、紙媒体での読者の減少、スマートフォンやタブレット端末等のデジタルデバイスの普及が進んだことから、議会広報紙をより多くの市民に届けるため、新たな情報発信手法として電子広報紙を取り入れることとした。平成 27 年 6 月から「マチイロ」というアプリを活用して議会広報紙を配信している。マチイロでは、登録された方に案内としてプッシュ通知を配信することができるため、これを活用した情報発信も検討している。</p> <p>議会広報紙についても、紙面構成の見直しや掲載項目をふやすなど読者増に向けた取り組みを続けている。</p>
主な質問・応答	問：現在情報発信に活用しているアプリで、何か他の情報を発信しようと考えているのか。

答：しばらくは現状のままでいきたいと考えている。今のアプリにはトピックス的にホームページにリンクしている部分もあるので、それを活用していきたい。

問：アプリを導入するのにどれくらい経費がかかるのか。

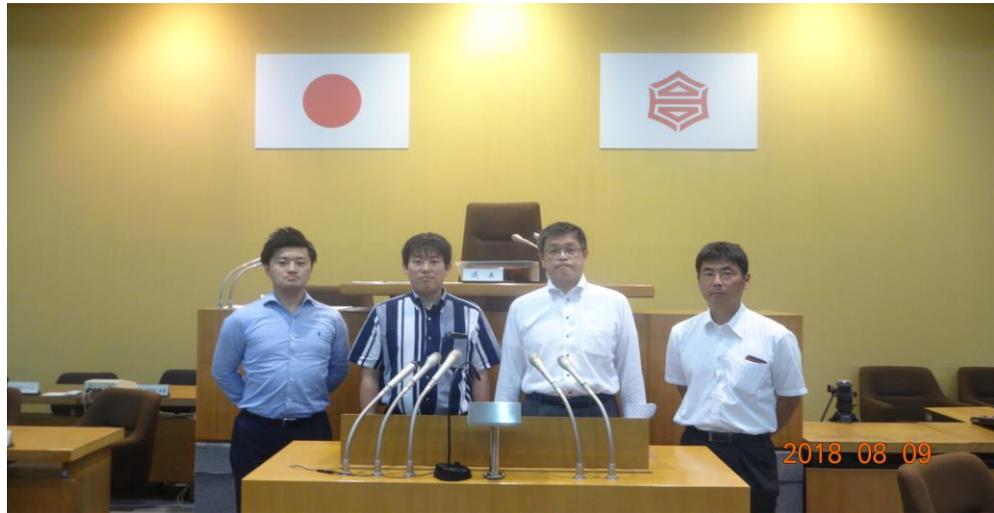
答：運営会社と協定を結ぶことで配信することができるようになる。運営会社は広告収入等で経費を賄っており、協定を結ぶ際や配信後も費用はかからないようになっている。

問：議会広報紙の「休憩室」というコラムと編集後記を議会広報委員で執筆されてあるが、書く内容に制限はあるのか。

答：内容は全て執筆者に任せており、特に制限はしていない。

問：議会広報紙作成において、広報委員会はどのような役割があるのか。

答：定例会での質疑や一般質問の中から、掲載するテーマを選定したり、編集後記など原稿の作成、チェックを行っている。



<集合写真：高知市議会議場>

その他（意見・感想）

アプリを使った情報発信については、情報発信の多角化やスマートフォンなどを活用する若者に向けた新たなツールの一つとしてとして、検討の価値があるのではないかと考える。また、導入費用がかからないということで、導入へのハードルも低いと思われる。今後、導入に向け議会内で議論が必要と考える。